

新型コロナウイルスに対する消毒について

“新型コロナウイルスに対する感染予防策”でもお知らせしましたが、感染対策を行っていく上で、「消毒」は最も重要な感染予防策の一つです。緊急事態宣言が発令されてから1ヶ月余りが経過し、宣言が解除されましたが、これで終結したわけではありません。皆さん一人一人の意識や行動が今まで以上に問われ、一日でも早く平穏な日常生活を取り戻せるように、一丸となって新型コロナウイルスと闘っていかなければいけません。

さて、昨今、至る所で消毒剤の入手が困難な状況が続いています。そこで、今回は新型コロナウイルスに対する「消毒」についてお知らせします。



てあらあう

アルコール製剤

アルコールといえば、一番に想像するものはお酒でしょう。アルコールはアルコール類の総称であり、エチルアルコール(エタノール)、メチルアルコール(メタノール)、イソプロピルアルコール(2-プロパノール、イソプロパノール)、などが含まれます。いずれも入手可能ですが、一般的に消毒用アルコールといわれているものは『エタノール』です。

(a)エタノール：一般的なアルコール消毒薬として使用されています。市販されているエタノールは、無水エタノール・消毒用エタノールなどがあります。エタノールが最も除菌効果を発揮するのはアルコール濃度が70~80vol%であり、消毒用はこの濃度になるよう調整されています。無水エタノールは、15°Cでエタノールを99.5vol%以上含みます。消毒効果が高いように思われますが、あっという間に蒸発してしまうため、実は消毒に向いていません(水拭きが出来ない電気器具の掃除用として使用されます)。

一方、消毒用エタノールは、エタノールを76.9~81.4vol%含み、エタノールがその場に留まって効果を発揮するため、消毒に向いているのです。商品の配合成分をしっかりと確認して、消毒に向いたものを選択するようしてください。実は、エタノールには酒税が課せられるため、同じような製品でもエタノール濃度が違えば価格も違ってきます。重要なポイントは、『エタノール』は「アルコール」の一種ですが、『アルコール』の全てが『エタノール』ではないということです。

(b)メタノール：アルコール類はどれも同じ様な名称ですが、メタノールを消毒薬として使用してはいけません。メタノールは、ホレマリンの原料やアルコールランプの燃料として使用され、人体にとってはとても有害です。消毒用としては、絶対に使用しないようにしてください。

(c)イソプロパノール：エタノールとほぼ同等の消毒効果を示しますが、親水性ウイルス(ノロウイルス、アデノウイルスなど)に対する効果は、エタノールに比べて劣るといわれています。70%以上の濃度で新型コロナウイルスに効果があると報告され、環境整備などには有効と考えられていますが、高濃度のイソプロパノールは人体への使用には適していません。

次亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸水

次亜塩素酸ナトリウムとは塩素系漂白剤の主成分などとして用いられている化合物であり、次亜塩素酸水とは“次亜塩素酸”を主成分とする水溶液です。次亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸水は、名前は似ていますが、全く異なるものですので注意してください。ちなみに、次亜塩素酸ナトリウムは既に新型コロナウイルスに有効であることが認識されていますが、次亜塩素酸水の有効性は立証段階です。